

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら 「第1ユニット」(左)		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1603-12		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年2月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々、学校、保育園との交流を施設で行うだけでなく、訪問もしている。</li> <li>・月2回、歯科医による口腔ケアを実施している。</li> <li>・月2回、市内のスーパーでの買い物支援を行い、地域の方と触れ合っている。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は自然豊かな環境を有し、隣接する同法人の事業所と様々な連携のもと、利用者への支援に取り組んでいる。これまで、地理的な困難さから課題であった地域とのつきあいは、高校の茶道部に声を掛けたことで訪問が実現したり、寺への働きかけから施設長が「福祉と仏教」等の講和を行う取り組みにも繋がっている。事業所は外部評価結果や独自のアンケートなどのツールをもとに家族の要望を聞き取り、積極的に改善に取り組んでいる。事業所が発行するさくら便りには、認知症の記事を載せたり、写真をプレゼントするなど家族の意見を反映した事例が多くある。また、食事に着目し、職員が手作りする料理を利用者と職員が同じテーブルを囲み会話しながら食事している様子は家庭的な雰囲気である。理念の一部にある利用者の自分らしい生活に真摯に取り組む事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい生活を送るため個々の生活歴、趣味をいかせる場所を提供し共有している。	「いくつになっても自分らしい生活をしたい」を理念に掲げている。利用者の基本情報に記した生活歴を職員間で共有し、得意分野を把握し会話の中に取り入れるなど工夫している。自己主張が困難な利用者について月1回の勉強会で解決方法を話し合い、理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事、学校行事に参加したり、訪問していただくことで地域の方との触れ合い交流ができています。	夏祭りでは、地域の人が事業所内を見学する事がある。保育園児との交流や今年度は近隣の高校の茶道部の訪問があり、利用者に抹茶を楽しんでもらう機会となった。施設長が地域の寺で「福祉と仏教」等の講和を行う取組みも行っており、地域と日頃から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地区の代表者、民生委員、家族代表、西海市消防団団長の方に参加して頂き施設の取り組み活動の報告を行い助言を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、活動、取り組みの報告を行い意見、助言をして頂きサービスに活かしている。また、必要に応じて次回の会議に繋がるように心がけている。	会議のメンバーには、近隣の福祉施設や消防団も参加しており、外出時の工夫や消火器の点検の重要性など、情報交換や助言を得ている。また看取りについての職員に対する研修の重要性も意見交換している。但し、現時点では、3ヶ月に1度の開催に留まっている。	運営推進会議は、年に6回以上の開催が必要である、回数を増やす工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(市)介護課、社協、包括センター等に居室状況などの情報交換をする事で協力を得ている。	行政には各種書類の提出の際に、連絡や報告を行っている。また成年後見制度を利用している為、手続きの点で問い合わせる事が多い。包括支援センターとは潜在的な利用者の状況に関して問い合わせしており、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の議題にも取り上げ、理解に努めている。また、夜間帯は街灯もなく危険なため外出できないように玄関には鍵をかけている。	勉強会やアンケートを実施し、自身の行動について見直す機会を作っている。センサーマットを使用しており、モニタリングの際に外す事が可能かどうかを話し合っている。また、管理者は職員が利用者へ待機を依頼する際は、必ず理由を伝えるよう指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マスコミによる情報はすぐに回覧している。また、スタッフ間でも協力しながら防止に努めている。施設内にも虐待防止委員会が設置されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の利用者様が成年後見制度を利用している。疑問があれば、行政にも相談を行い、家族様にも情報を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書類を用い説明し納得して頂いた上で署名、捺印していただき契約に繋げている。 また、説明者の署名、捺印もして家族様、施設側と各一部づつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の会話により感じた事を意見、要望として記録し、カンファレンス時に反映している。	意見箱や外部相談窓口を契約時に説明しており、家族には面会時に要望等を聞いている。また、さくら便りについてのアンケートを行い7割の回収率を得て、役立てている。家族から献立を知りたいという要望があり、郵送したり、利用者と職員の対話が少なくという指摘から関わりを持つよう改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会にて、職員の意見、提案を上司に報告、業務改善に繋げている。	毎月の勉強会で話しやすい雰囲気を作り、職員から要望やアイデアが出ている。これまでにコンロを新調したり、シフトや有給休暇の希望を反映している。事業所から職員に対して実践者研修の受講を促している。職員は主任に相談し、内容によって主任が上司に報告する仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトについては、職員の希望休を取り入れ作成している。また、施設次長が訪談時に、職員の意見、要望を聞き解決策も検討してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、勉強会を通じて専門的知識を得ることで、実践に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は、同業者との勉強会もなく交流する機会もなかったため、活動できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ICFシートを活用して本人の状態や状況に合わせて、コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望、不安を傾聴しその都度説明を行い安心できる関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様からの情報を共有し、また現在の状態を細かく記録して、必要とするサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話をきちんと傾聴し、理解する事で本人の出来る事、やりたい事を支援できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「さくらだより」にて活動状況、「収支報告書」にて生活状況を掲載し伝えている。 また、面会時には経過観察記録簿を観て頂き状況説明も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中には、同じ地域で知り合いが多く、両ユニット間でも場所を提供し馴染みの関係が途切れないように支援している。	家族や友人の面会がある。また、隣接するリハビリの施設を訪れた友人が訪ねてくることもある。温泉や墓参り、買い物や盆正月の外泊など家族の協力を得て出掛けている。また、編み物や裁縫など馴染みのものを揃えるなど本人の馴染みの物や人、場との関係を継続する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の手伝い、洗濯物たたみなど出来る事を自由に参加してもらい、スタッフと一緒に楽しみながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所、他の施設移設退所後でも面会に伺っている。また、ご家族にお会いした時は気軽に声を掛け合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の出来る事はして頂き出来ない事は支援している。困難者に対してはスタッフが代弁者として意見を聞きケアに繋げている。	日々の支援の中で、本人の意向を聞き出している。聴覚障害の利用者には手話やジェスチャーでコミュニケーションを取っている。管理者は職員に利用者と目線を合わせて会話するよう指導しており、信頼関係を構築し、本音を聞き出すことができると考えている。得た情報は記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に関係者より情報を頂き、入所後は本人との会話の中で暮らしぶりを引き出し、その人に合ったケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態、状況にあわせて支援している。 異変を感じたら看護師と連携のもと早急に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で気づきを記録し、3ヶ月に一度の見直し時にスタッフの意見を反映しケアプラン作成している。	家族には面会時に要望を聞いており、家族の要望等は記録に色を変えて記述している。計画はICFシートをもとにケアマネージャーが作成している。3ヶ月ごとに全職員でケアカンファ会議を開き、見直しを検討している。計画は本人の同意を得て実施している。入退院時にはICFシートを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過観察簿・チェック表・申し送りノート等を活用し情報を共有して、スタッフの意見が出やすいようにミーティングを頻回に行い見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に合わせるため、職員の意見など活用して、状況に合った支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の高校、保育園など、地域の方の協力を得て交流する事で楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の連携医療機関を紹介し説明、納得の上で受診の支援をしている。受信後は、看護師より随時報告があり、また経過記録簿にも、記載している。	利用開始前のかかりつけ医を尊重しており、無理な場合は家族へ説明の上、協力医療機関を受診している。通院は家族や事業所が同行支援しており、事業所が行う場合は看護師が付き添っている。薬が変わった際には互いに報告し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	準看護師が常駐している事で安心した生活ができている。 また、週1回(2H)看護師の訪設時、利用者の現状を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師・職員が付き添い状況の情報を提供している。また、病院内の地域連携室とも情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応について契約書に添って説明をして、納得の上、署名捺印をして頂き医療機関との連携をしながら支援している。	「重度化した場合における指針」及び家族からの「同意書」は整えられているものの、現時点では事業所として重度化・看取りに取り組むか否かの方針は決定しておらず、不明確である。また、重度化・看取りに関する職員の認識、理解も低い状況である。	事業所として看取りに対しての方向性を定める事が望まれる。取り組む場合には、職員への教育を十分に行い、意識の統一化を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番通報、救急車の呼び方について手順を作成して見やすい場所に貼り付けている。 また、訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている、そのうち1回は消防署立会の下指導を受けている。また、西海市消防団団長が、運営推進会議委員として参加して頂いている。	毎月19日を通報訓練の日と定めて、訓練を行っている。直近では、11月に消防署立会のもと、夜間想定訓練を行っている。現時点では、火災以外の災害に対する訓練は行われていない。また備蓄、持出品についての検討もこれからである。	現時点では、水害、地震等の火災以外の災害に対する訓練が実施されていない為、マニュアルを整備し、訓練を行う事が望まれる。また非常用の備蓄品に対しても検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ時は、言葉使いに気をつけ、プライドを損なわないように心掛けている。居室入室する時も本人の了解を得ている。	職員採用時に、倫理規定について説明を行い守秘義務に関する誓約書を交わしている。利用者は必ず名字で呼び、尊敬の念を持って接するように職員教育を行っている。職員は利用者との会話の中で相手を否定せず、常に受け入れる事を念頭に置いて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味、特技など把握し会話の中から汲み取り、本人の自己決定を優先し、職員の都合を押し付けないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の感情を押し付けるのではなく、本人の状態、状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合った身だしなみの支援を行い、意思表示の出来ない方には、身だしなみに注意して洋服を選んでいる。また、理美容の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や菜園で収穫した食材を利用し、一緒に準備し、楽しく食事をしている。	献立は職員が作成し、栄養士のチェックを受けている。汁は薄めて塩分量に注意している他、きざみ食、とろみ食にも対応している。昼食は職員も同じテーブルを囲んでいる。夏祭りやクリスマスは家族も一緒に楽しんでいる。また、花見に弁当、正月はおせちと家庭の温かみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスを考慮している。また、便、尿量など記録して水分不足にならないように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、夜間には義歯の洗浄も必ず行っている。また、月2回歯科医による口腔ケアも行い、必要に応じて歯科受診も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、時間、状況を見て声かけトイレ誘導を行い自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、パターンを把握している。夜間帯にオムツを使用する利用者も日中はリハビリパンツか布パンツで過ごしている。夜間、ポータブルトイレを使用する場合はその都度洗浄し、換気扇や消臭剤などで臭気がこもらないように努めている。リハビリパンツから布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護と連携をとり排便のリズムを整え、水分補給、食物の工夫、運動の声かけなど自然に排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分、希望を優先し何時でも気持ちよく入浴できるように清潔にし、お湯の温度にも気を付けた支援を行っている。	2日おきに入浴を支援している。基本的には1対1で介助するが、場合によっては職員が2人で支援することもある。拒否の場合は職員や時間を替えて声掛けしている。梅雨時期、夏場は全員が足浴しており、入浴剤を入れたり、清拭するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休息したり、体操、散歩など活動する事で夜間の睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理、指導の下、服薬支援を行っている。 また、誤薬防止のため2人体制で確認、与薬時に名前を読み上げ再度の確認につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに出来る事をして頂くことで生活に変化を持たせ日々楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	学生の協力を得て、文化祭の見学ができた。月2回の大型スーパーでの買い物と一緒に出かけている。	季節のいい時期には、職員は利用者と玄関前のベンチに座って外気浴を兼ねて世間話している。事業所前のグラウンドを10分程度散歩し桜やオリーブ、柿などを観るなど楽しんでいる。また、大型スーパーには利用者4、5人と職員数名で出掛けている。家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方で管理をしている。品物購入希望があれば、本人確認のうえ、支払いの支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、荷物の受け取り後は、本人に直接電話連絡をして頂いている。また、希望があれば家族にもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングより、毎朝日の出を拝み、季節の移り変わりを楽しんでいる。また、季節に合わせた貼り絵を一緒に作成し壁に飾っている。	玄関は戸建て住宅のような格子戸であり、利用者にとって懐かしい雰囲気である。リビングは光が差し込み、心地良い空間となっている。清掃は職員が行っており、テーブルは利用者が拭くこともある。ドアノブや手すりは消毒も行われているが、掃除が行き届いていないところがある。	利用者が集うフローリングに埃が見られる為、掃除の回数や用具の検討など工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニット間を自由に行き来でき、利用者同士でおしゃべりできる雰囲気作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具、テレビ、仏壇など自由に置く事が出来、生活の延長になるように工夫している。	居室は持ち込みの制限はなく、利用者それぞれに仏壇やテレビ、整理ダンスなどを配している。居室の清掃は主に職員が行っているが、掃除機やモップをかける利用者もいる。壁に画鋸が打てないため、写真は立てて置いてあり、居心地のいい居室となるよう職員が工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく居室、風呂場、トイレ、の表示は大きくわかりやすくしている。また、リビングには、手作りカレンダー、時計も見やすい場所へ置き出来るだけ自立に向けた支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら 「第2ユニット」(右)		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1603-12		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリを兼ね、ラジオ体操、リズム体操を実施し必要に応じ歩行訓練も実施している。</li> <li>・誤嚥防止の為、毎食前、嚥下体操を行っている。</li> <li>・月2回の歯科医による口腔ケア時、要支援者の指導を受けている。</li> <li>・地域との交流を施設で行うだけでなく、地域の方の協力を得て地域参加を支援している。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の出来る事、やりたい事の声を受け止め危険がない限り行動の制限をせず、自由に活動してもらっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大型スーパーでの買い物支援、高校の文化祭見学、保育園児との交流など地域の方の協力を得て交流に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題にも取り上げ、メンバーである民生委員、消防団長、地域の代表者につたえている。「さくらだより」においても認知症について記載し配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で施設の状況、活動報告を行っている。委員の方からは提案、意見、助言など頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂いている。また、利用者の異動届けなど必要に応じて報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加し、職員間での勉強会も行って、身体拘束の見直し、取り組みを検討している。 夜間帯については、玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催の研修に参加、また施設勉強会の議題でも取り上げ共通認識を持ち防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の入所者が利用している。施設内にも成年後見制度についての冊子を置き自由に活用できる体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時書類にて内容を説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望箱を設置している。利用者家族面会時の会話の中で意見、要望を収集して職員で対応した。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設次長が定期的に訪設している。また、月1回の緑葉会施設会議に管理者が出席し意見や提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者2名が職員として雇用になった。本人、家族等の病気など緊急時においても柔軟に対応してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修情報を提供し、希望者には参加できるよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、同業者間の研修が実施されずネットワークづくりができなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から出来る事を一緒にいき、会話をし此処に居て大丈夫、安心していいんだと思ってもらえるよう努め支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入所時に困っている事、要望を伺っている。面会時には現状を説明、今後の要望も本人・家族へ尋ね確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、面会を行い本人・家族の思いや状況を確認し、必要な支援の提案や情報の提供など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で喜怒哀楽を共に分かち合い、本人達の出来る事を無理なく共に行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況や表情など、毎月発行している便りの中で情報を提供している。 また、施設行事の案内なども送付し気軽に訪問して頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2ユニット間の行き来を自由に行っている。以前から馴染みの人や新たに馴染みになった関係を大事に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファが増えたことにより、会話の場面も増え利用者同士がかかわり、支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された方のお見舞い、ソーシャルワーカーとの連絡時に様子を伺っている。地域で家族に合った時は、積極的に声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に全職員で本人の言動や家族等から情報を収集し、意向や希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中からの情報を入居時の情報に加えて支援にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の「バイタルチェック」による健康観察に加え臥床してもらったり散歩したり、ソファで安楽な姿勢になってもらったりと同じ体制で1日中を生活しないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人の担当を決めており、日々のチェック表・スタッフ間の連絡帳にてカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別記録に記入し情報の共有化を図り、スタッフ間の連絡ノートを活用する事により改善、見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況や要望に対し、両ユニット間で話し合い、意見を求め支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の買い物支援に数名ずつ参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を伺い希望に添う様にしているが無理な場合は協力医院を紹介し納得して頂き受診の支援を行っている。必要に応じ、受信後の報告は看護より行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	準看護師が常駐しており、日々の観察の中で職員との情報交換を行っている。それにより早期対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護が付き添い必要な情報を提供している。入院中も家族・病院との情報交換を行い退院後はスムーズに受け入れる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護、スタッフとの話し合いのもと、家族の意見を尋ね、施設、医療機関との連携をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えマニュアルを作成している。施設側の訓練にも参加し、救急要請の手順についても訓練をしている。利用者の急変時は看護の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、運営推進会議のメンバーとして地域の消防団代表にも加わってもらった。11月17日には、消防署、消防団も交え施設全体で訓練を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄支援の際、プライバシーを配慮した対応を心掛けている。また、尊敬の意を表した言葉づかいに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中、手伝い等をお願いするときは、本人の同意を得て行って貰っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が余裕をもって行動できるように、職員もゆとりを持って接するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り・髭そり・散髪は本人の意思のもと対応している。また、季節にあった服装が出来る様、衣替えの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で植え付け、収穫した野菜や、芋づる・つわなど昔ながらのメニューを取り入れ準備から片付けまで一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の栄養士に献立、栄養面について助言を頂いている。また、病気・体重の変化・排便・尿量の様子を観ながら、食事の量、水分の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夜間に義歯の洗浄消毒を行っている。毎月2回歯科医による口腔ケアも行い指導を受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンの把握、様子を伺い誘導を行い、見守りのなか可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による排便管理を行っており、乳製品を摂取したり、運動、腹部マッサージなどで自然排便を試み、それに応じた下剤調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後からの入浴を行い、週2回の対応ができています。好みの温度で対応している。体調不良の訴えがあれば、看護とも連携し翌日対応を促し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の生活リズムを把握し、昼間でも臥床出来るように支援している。布団や空調での温度調節を行い、穏やかに過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し指示のもと服薬支援を行っている 職員も個々の薬の種類や用法を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を役割としてやって頂き、自信に繋がってもらっている。 体操・音楽鑑賞などで気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グランド散歩や外気浴など支援している。 本年度より月2回、市内の大型スーパーへの買い物にも数名づつ参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が保持している方は現在いない。散髪や医療機関受診時に心配される方には家族より預かり保管している事を伝え安心してもらってる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や荷物の受け取り後にお礼の電話をしている。手紙での連絡は希望されず実施に至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節を感じ取れる貼り絵をしたり、目で楽しめる取り組みを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って利用者同士が自由に会話したりしてくつろいでもらっている。一人になりたい時は、居室で過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具・テレビ・布団など持参してもらっている。また、仏壇も置いて頂き落ち着いた生活の支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を使えるよう手摺を付け、バリアフリーにしている。トイレ・浴室の表示は大きな字で見やすく表示している。		